



「節目節目で新しいことを 学んで来たことで、今の私があります」

宇都宮商工会議所優良従業員表彰を受賞した、勤続年数35年以上の従業員を紹介する新企画です。第1回は株式会社花塚製作所の松島宏部長にご登場いただきました。松島部長は高校卒業後同社に入社し、昨年3月に勤続35年を迎えられました。

バブル景気直前の時代に入社し、 35年勤続

（株）花塚製作所は、回転式容積型ステンレスポンプとステンレス製充填機の専門メーカーです。その製品は食品や醸造、化粧品、化学薬品などさまざまな製造現場を支えています。

私が入社したのは昭和59（1984）年3月でした。高校の普通科を卒業する時、学校にきていた新卒募集の中から選びました。

選んだ理由ですか？ 第一に学校の推



同社の主力製品のひとつ、
ステンレスルーツポンプCFシリーズ

薦があったことです。また宇都宮市内の実家から通勤できる地理的要件も魅力でした。そして、当時はまだ珍しかった「隔週土曜日および毎日曜日定休」だったことも理由の一つです。当時、土日休みの会社は、まだ少なかったんですよ。

入社すると、まずサービス部門に配属になりました。これは主に修理を行う部門です。ここに3年いた後に、充填機の製造部門に移り、10年ほど働きました。その後は組み立て部門を経て、再びサービス部門に戻っています。現在は製造部長として、製造部門の全体を管理する立場です。

振り返ると、サービス部門勤務が長かったという印象があります。この部門の仕事は修理ですから、お客さまのところへいかなくては作業することが多いのです。ですから、日本全国あちこちに行きました。35年の勤務の中で、行っていない県は5県くらいじゃないでしょうか。

私は元来「出不精」で、自分の楽しみのために出かけることは、ほとんどありません。しかし、会社の業務のおかげ

で、日本中を見ることができました。それが何よりの思い出です。

定年までの課題は、 次世代を担う人材育成

管理職になると、現場の仕事からは離れてしまいます。当初はやはり寂しい気持ちがありました。また、機械を相手にしていた仕事から、作業管理や工程管理、部下の指導などに変わったことで、慣れるまではいろいろ苦労もありました。ただ、あまり「大変だ」「辛い」と思うことは、なかったですね。

私は、節目節目で仕事が変わってきましたから、その度に新しいことを学んできました。そういうことを辛いと思う人もいるでしょうが、私はもともと学ぶことが好きなんです。

部下を指導する際には、本人がきちんと考えるようにしています。部下が何か作業した場合に、なぜそうやったのかを必ず聞きます。確かな考えがあった場合は、そのまま任せます。あ



（株）花塚製作所
製造部部长
松島 宏さん

まり考えていなかったり、考えが足りない場合には、教えてあげることもあります。

私は55歳ですから、定年まで5年。今後は、自分の仕事をいかに引き継ぐかが、大きな課題になります。それには、自分にはない知識も勉強する必要があります。技術は日進月歩ですから、製品にせよそれを作る機械や製造技術にせよ、どんどん新しくなっています。自分では体験してこなかった技術でも情報を持つていなければ、指導はできませんから。あと5年、そういうところに力を注いで行こうと思っています。



株式会社 花塚製作所
代表取締役社長 花塚 真
創業／昭和21（1946）年
本社・工場／宇都宮市宝木町1241番地
☎028-665-2831（代）
<http://www.hanatsuka.co.jp>